

## 定住自立圏構想における基本問題検討ワーキンググループ（第4回）

### 要旨

#### 【開催日時等】

- 開催日時：平成28年3月11日（金）10：00～11：50
- 場 所：経済産業省別館302共用会議室
- 出席者：辻座長、伊藤委員、梶井委員、小西委員、高田委員、牧野委員、  
原田地域力創造審議官、黒瀬地域自立応援課長、海老原市町村課長

#### 【主な意見】

- 人口要件と昼夜間人口比率というのは汎用性が高く、これをベースにするという点は、この研究会では一致。問題は、それを補完するものについてどう位置づけるか。
- 購買動向について、立地の変動を追うようなしっかりしたデータがないので、的確なデータが出せない。
- 中心市として負担も大きくて、今後も医療面で周りの中心となり、流入超過であるところに関しては、もう少し加味していいのではないか。
- 医療は生活圏域での動きであり、定住自立圏を形成しているところはほぼ100%圏域で取り組んでいるため、定住自立圏の1つの核といえる。
- 受療動向は、昼夜間人口比率に比べて精度は下がるが、客観的なデータとして踏まえても良い。
- 受療動向について、今のところ、各都道府県において公表できるデータがほとんどないため、中心市の要件として加味することは困難であるけれども、今後、都道府県において新たにデータが整えられれば、それをもって結論とすることができるのではないか。
- なぜ受療動向だけかといわれると、説明が難しいのではないか。
- 政府全体としては新たな試みについては、地方創生先行型で応援している。
- 定住自立圏の要件を緩和するのではなくて、むしろバリエーションをどう考えていくかだと思う。

- 人口要件のところは、普通に考えて、人口も減り、高齢化していく中で、中心市も増えていくのは理屈的には厳しい。
- 人口減少社会を踏まえて定住自立圏構想ができたが、人口減に歯止めがかからなければ、人口要件の前に、この制度の実効性も含めて問題になってくる。それは成果検証等を行いながら、中期的に整理をする必要がある。
- 高齢化して、通勤・通学者が非常に薄くなっていく中で、中心性を見る代表的な指標として受療動向を保管するということはあり得る。